

小国町人口ビジョン及び地域創生総合戦略の概要

平成27年10月策定

人口ビジョン

＜人口動態の推移＞

昭和30年の18,366人をピークに減少

- ・転入より転出が100人前後多い状態が続く
- ・出生数は減少傾向、H9以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」状態
- ・合計特殊出生率(1人の女性が生涯に産む子供の数)は県・全国平均以上だが下降傾向

＜人口の将来展望＞

基本的視点

- ①雇用の場の創出による人口流出の抑制
- ②田園回帰の受け皿
- ③出産・子育て環境のさらなる向上
- ④協働と連携と交流による新たな支えあいの仕組みづくり

総合戦略による取り組み

★合計特殊出生率の向上

2020年に2.0、2040年に2.07へ

★移住促進と人口流出の抑制

若い世代の増加により出生数を増加

⇒人口減少の緩和

【小国町の人口の将来展望】



2040年人口(推計値) 6,220人

(国立社会保障・人口問題研究所推計値：5,117人)

★「協働人口」の拡大

まちづくりに関わる町外からの通勤・通学者、大学生などの「協働人口」の拡大と連携強化

⇒人口減少を補い魅力あふれるまちづくりへ

地域創生総合戦略 (計画期間：H27～31年度)

■基本方針■

山の暮らし伝承創造機構※による取り組みを通じ、地域の「誇り」と「魅力」を再興し、協働、交流、連携に基づく地域づくりを推進する ～知恵と技の伝承による新しい地域創生プラットフォームの構築～

※山の暮らし伝承創造機構：地域資源を活かしたまちづくり活動を通じて、小国町の知恵と技を集積・伝承・発信する仕組み

「おぐに」の魅力を活かした産業振興と“しごと”の創出

基本目標

小国町特有の豊かな地域資源を存分に活用した新しい産業づくりや地域資源のブランド化、既存産業の発展支援を図り、就業機会の拡大を目指します

基本方向

- ①既存産業の継続的な発展支援
- ②森林資源のさらなる活用と第1次産業の活性化・高度化の推進
- ③各分野の連携・協働による地域資源のブランド化の促進
- ④環境保全や健康など新たな価値を生み出す産業づくり
- ⑤多様な働き方の創出と起業・創業支援

H31目標値

町内事業所従業者数 3,480人(H24:3,409人)

農林業従事者数 290人(H22:280人)

町内総生産 32,986百万円(H24:30,911百万円)

子育て世代への的確な支援と地域を担う人づくり及び協働・交流・連携の推進

基本目標

安心して出産・子育てができる環境の充実や教育環境の向上を図るとともに、多様な人財の協働により地域の活力を高め、選んでもらえる地域づくりに結びつけます

基本方向

- ①結婚・出産・子育て支援の充実
- ②小中高一貫教育の推進
- ③高等学校を含めた教育環境の充実
- ④知恵と技の伝承とそれを支える人財育成
- ⑤多様な交流の推進
- ⑥若い世代を中心とした移住交流の促進
- ⑦協働人口の結集と地域づくりへの参画
- ⑧既存ストックを活用した交流の展開
- ⑨地域経済の好循環の創出

H31目標値

転入者数(年間) 196人(H26:170人)

20～49才の人口構成比 27.1%(H27:26%)

交流人口 400千人(H26:352.4千人) など

安心・安全な暮らしの実現

基本目標

生活を支える基盤の整備を着実に進めるとともに、住民主体の地域づくり活動を積極的に促進し、コミュニティ機能の保全、強化を目指します

基本方向

- ①生活基盤・社会基盤の整備
- ②医療介護体制・防災体制の充実
- ③健康づくりの促進と高齢者福祉の推進
- ④総合的な雪対策など「住みよさ」の追求
- ⑤環境への配慮と里山景観の保全
- ⑥住民主体の地域づくりの促進
- ⑦「小さな拠点」づくりと地域間の連携強化
- ⑧地域づくりを推進する仕組み(山の暮らし伝承創造機構)の構築と拠点の整備

H31目標値

愛着がある人の割合 70%(H27:57.4%)

住み続けたいと思う人の割合 70%(H27:47.6%)

地域活動への参加意向 50%(H27:23.4%)

重点的に取り組む戦略プロジェクト

①若い世代のしごとづくりと子育て支援の充実

企業・研究所等への情報発信、多様な働き方を進めるための調査、住宅・営農支援・農外収入等をパッケージにした新規就農支援システムの構築、「白い森の国おぐに」のブランド構築、SNSによる子育て情報の発信 等

②移住・交流促進プログラムの推進

移住交流プログラムの一体的な取り組みの推進、インバウンド事業の促進、孫ターンの促進、起業・創業支援の充実、首都圏等における町出身者・関係者の新たな組織化、小国高等学校魅力化プロジェクトの推進 等

③多様な主体による協働・交流・連携のまちづくりの展開

ネイチャリングタウン構想の推進、地域づくり計画策定支援、地域おこし協力隊の受け入れ、大学との連携、小さな拠点づくりの推進、山の暮らし伝承創造機構(仮称)の創設と拠点としての新総合センターの整備 等